

令和元年度 第1回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日 時】 令和元年7月26日(金)
14時30分～16時00分

【場 所】 新潟市歴史博物館セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 (新潟大学人文学部名誉教授)
本井 晴信 副会長 (元新潟県立文書館 副館長)
久保 有朋 委員 (新潟大学大学院生)
渋川 綾子 委員 (にいがた湊あねさま倶楽部)
津野 治彦 委員 (新潟市立亀田小学校長)
橋本 博文 委員 (新潟大学人文社会科学系フェロー)
羽生 頼子 委員 (公募委員)
広川 公之 委員 (BSN新潟放送 事業局 事業部 部長代理)
山田 周 委員 (日本旅行業協会 関東支部 新潟地区委員長)
和氣 彰 委員 (新潟市小中学生PTA連合会 副会長)

【オブザーバー】 廣野 耕造 歴史文化課長補佐

【事務局】 伊東 祐之 新潟市歴史博物館 館長
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長
野口 晋 新潟市歴史博物館 総務担当次長
阿部 均 旧小澤家住宅 館長
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長
高橋 久美 旧小澤家住宅 職員

【 次 第 】

1.開 会

2.館長挨拶 詳細別紙

3.各委員・オブザーバー自己紹介

4.協議会・会長の選任 詳細別紙

5.議事

(1) 平成 30 年度の館運営報告

1) 博物館

2) 旧小澤家住宅

資料 1～6 に沿って、事務局から説明。

≪ 質疑応答 1 ≫ 詳細別紙

(2) 平成 31 年度（令和元年度）の館運営状況

1) 博物館

2) 旧小澤家住宅

資料 7～13 に沿って、事務局から説明。

≪ 質疑応答 2 ≫ 詳細別紙

(3) 文化庁補助事業「新潟開港 150 年新潟古町の記憶と魅力発信事業」

事務局から口頭で説明。

≪ 質疑応答 3 ≫ 詳細別紙

6.閉会

《館長挨拶》

(伊東 館長)

この4～5年文化庁が博物館の転換について舵を切っており、そのひとつとして文化財の活用というものがある。今年度の新潟県立歴史博物館 夏季企画展「新たな国民のたからー文化庁購入文化財ー百花繚乱」というものがあるが、これは文化庁が購入した文化財を全国の博物館の巡回展として開催するもので、文化庁の活用という考え方が元となっている。また、当館が収蔵している資料いくつかは「日本遺産」というものになっているが、これも同様である。文化財を観光資源として「活用する」ということがメインになっているが、博物館の在り方自体に踏み込んできている気がする。

本来博物館は社会教育機関というものであったが、それにとどまらず生涯学習機関と定義が変わってきている。さらに市民のための市民参画の博物館ということが約20年前から言われるようになってきた。当館も市民による市民参加のための博物館ということを謳って運営してきた。市民の社会文化活動に寄与するというのを運営母体である新潟市芸術文化振興財団の設置要綱に定義してあるが、これは博物館の主体的な活動である資料収集、調査研究、企画展示、教育普及活動を市民の皆様に活用してもらおうということがメインだった。加えて、現在は市民の活動に主体的に関わることが求められてきている。今回、説明する予定になっている文化庁補助事業「地域の博物館を核としたクラスター形成事業」というものがそれにあたる。博物館が官民を集めて社会活動をするのが求められている。それに応えるためには社会がどのようになっていかなければいけないのか、博物館が考える必要がある。現状の博物館の財政と人材を考えるとかなり負担になるものだと思うが、自分たちで論理立ててやっていかなければならない時代が来ている。

令和3年度に新指定管理期間が始まる予定になっているが、文化庁の指針に応えるためにも今年度は博物館の今後を考えるための重要な年であり、皆様からもご意見をいただきたい。

《協議会の会長・副会長の選任》

事務局から会長は池田委員、副会長は本井委員で提案したところ、「異議なし」と了承を得た。

《質疑応答 1》

(本井 副会長)

旧小澤家は建物そのものが文化財であり、誰でも中に見ることができるため大変優れた施設だとは思っているが、建物や調度品を来館者が手で触ったりして文化財が傷むようなことはないか。

(阿部 館長)

大人のお客様については、当時の建物・調度品のため気をつけて触れているが、子ども連れのお客様が来られた場合には、当館としても気をつけている。また、防犯カメラも施設内には設置しており、適宜カメラを見るだけでなく、忘れもののチェックや掛け軸等調度品に何かあっても困るため、1時間に1回程度定期的に巡回も行っている。また、お客様もケガはない。

(久保 委員)

旧小澤家住宅の前にあった観光循環バスの停留所の位置が令和元年7月から片桐家の前（五菜堀のバス停）に変更になった。旧小澤家住宅では停留所の位置の変更によるデメリットに対する対策は何かしているか。

(阿部 館長)

今までは観光循環バスは白山公園先回りと朱鷺メッセ先回りの2つルートがあったが、一つに絞られ、また、旧小澤家住宅前のバス停も当館の目の前にあものが片桐家の前（五菜堀のバス停）に変更になったことは久保委員からもご指摘があったとおりだが、実際、新停留所は、当館から80m離れており、バス停から当館は見えないため、昨年暮れに看板で案内図を出すよう、新潟市観光政策課に依頼した。今のところは、旧小澤家住宅の場所が分かりにくいという苦情はないが、おそらくバスの運転手が案内してくれているのだと思う。

観光循環バスのほうも採算がとれないため、ルートをひとつに絞った経緯もあると思うが、本来であれば観光施設の前にあるべきバス停が変更になったことで、来館者減になることは予想される。今年度末には観光循環バスの影響による数字の変化の統計もとれるはずであるから、この統計を元に市にバス停の設置箇所の変更を働きかけて行きたいと考えている。

(久保 委員)

平成30年度に旧新潟税関庁舎で開催された企画展「新潟税関庁舎と史跡」展は大変すばらしかったが、全国的に文化財を使って観光客を呼び込もうとい

う動きが広がってきている。また、文化財で地元の人たちが住んでいる街に対する思いを高めて行こうという動きもある。旧新潟税関舎は全国・海外にも誇れるような建物であり、旧新潟税関庁舎を管理しているみなとびあのほうで、旧新潟税関庁舎の保存活用にどれだけ費用がかかり、旧新潟税関庁舎の価値と併せて展示等で発信していったらいいと考えており、その発信は企画展だけでなく、常設展でも行うことは可能か。

また、市民組織と連携して旧新潟税関庁舎の価値を発信していくことは可能かどうか。

(小林 副館長)

平成30年度に旧新潟税関庁舎の改修工事は完了したが、その工事施工前は、旧新潟税関庁舎内にパネルを展示し、その価値を発信していた。改修後、まだ旧新潟税関庁舎の歴史的価値を発信するような展示はしていないが、今後、実施する方向で考えてはいる。

改修前は、旧新潟税関庁舎内に受付案内職員を設置していたが、改修後はコストの関係でその職員は配置していないため、サービス面では低下したかと思うが、そのカバーは今後していきたい。

試験的ではあるが、当館のボランティアによる塔屋見学会を月1回程度行い、文化財の活用というものを行っていく。

(津野 委員)

昨年度は常設、企画、体験の広場の来館者数が増加しており、逆に情報ライブラリーの利用者数が減少傾向にあるが、要因は。

(小林 副館長)

体験の広場は自動カウンターで人数を把握しており、体験プログラムの実施数が増えるとどうしても自動カウンターの人数も増えるため、来館者数増加になったものと考えられる。また、全体の来館者数が増えると体験の広場も立ち寄る方も多くなる。

情報ライブラリーについては、特段思い当たる要因はないが、今後注視していく。

(橋本 委員)

平成30年度の子ども歴史クラブの活動は具体的にどのようなプログラムを実施したのか。また、子ども歴史クラブのプログラムは参加費を徴収しているかどうか。加えて、歴史クラブの会員は29名ということだが、学校に偏りは

ないか。

(小林 副館長)

子ども歴史クラブの活動内容については、チラシを後でお渡しする。

参加費はいただいているプログラムといただいていないものがある。有料無料の別については、材料費のかかるものは有料（実費程度）になっている。会員は遠くの西蒲区・秋葉区の小学生は少ない傾向にあるが、特に偏りは見受けられない。

《質疑応答 2》

(本井 副会長)

先日6月18日に山形県沖地震が発生したため思い出したが、平成26年にみなとびあで新潟地震発生50年のときに企画展「新潟地震」展が開催されたが、その際に床面に展示した新潟地震の被害状況調査図の拡大版を常設に展示してもらいたい。旧新潟市域だけでなく、合併市町村の調査結果も展示されてたかと思う。地質調査の業者ももう一度新潟地震を見直さなければならないと関心を持っているため、信濃川阿賀野川を中心とした地形の要因の展示ももう少し強調していただけると、みなとびあに来館した際に補充的な判断につながると思う。近々建築業界の集まりで地形の話をしに行くが、参加者はほとんどみなとびあに来ていないようなので、彼らの常識の場を養う場にもなってほしい。

(山田 委員)

先ほど旧小澤家住宅阿部館長より日本庭園街道のお話があったが、現在、新潟県内では花角知事の観光政策の追い風もあり、ガーデンツーリズム（庭園の見学）のPRに力を入れている。5月に国土交通省からガーデンツーリズムの第一弾として承認され、日本旅行業協会関東支部でもまずエージェントである旅行業者が内容を知っていなければならないため、7月に勉強会を開催した。また、新潟経済同友会という地元の有力者の会があるが、その会員でも意外と知らない方がいるので、秋に勉強会の予定を組んでいる。日本旅行業協会関東支部としてもガーデンツーリズムを新潟県内外でPRしていきたい。

また、花角知事からも旅行業界はインバウンドの要請を受けているため、インバウンドに対する海外向けのサイン等対応状況をお聞きしたい。

(小林 副館長)

開館当初から外国人向けの音声ガイドを4か国語（英語・中国語・韓国語・

ロシア語)を用意している。ただ、シアター、企画の外国語対応は進んでいない。外国語対応は将来的な課題であるが、シアターの英語字幕は予算要求している。

また、当館のボランティアガイドに英語で案内できる方がおり、クルーズ船の寄港時には当館の解説をお願いしている。

(津野 委員)

江南区にも資料館があるが、江南区内の学校が授業で資料館を使うと交通費の補助がある。例えば一つの区から2校まで交通費を補助する等対応を検討していただきたい。

また、現在、小中学校とも総合的学習が週30時間あるが、外国語の授業も入ってきており、今後、夏休みに自分で図書館に出向いて調べたら授業数といれていいという方針を文科省が打ち出している。そうなった場合、子どもたちがみなとびあの情報ライブラリーに来る可能性が高くなるが、その対応策として子どもたちが調べ学習のできる場所として情報ライブラリーを提供していただきたい。また、夏休みに子ども向けの勉強会を開く等していただくとありがたい。

(小林 副館長)

交通費の補助については、当館で対応は難しいと思うが、当館が小中学校に出向いて出前授業はすることはできる。

調べ学習については、新しい博学連携事業として小中学校と連携して実施していけると当館としてもありがたい。

(津野 委員)

校長会の集まりや社会科教員の集まりもあり、情報提供できるので、ぜひ協力したい。

《質疑応答3》

(久保 委員)

みなと新潟実行委員会に花街の会も参加しているが、古町を何とかしたいと考えている花街の会としては今年度の新潟古町の記憶と魅力発信事業が終わった後も何らかの形でみなとびあ連携をしていきたい。また、花街の会に限らず、今後も民間とも引き続き連携して行ってほしい。

(小林 副館長)

「新潟古町の記憶と魅力発信事業」は文化庁の補助事業となっているが、事業を継続して実施していくのが補助の条件としてあるため、引き続き我々も続けていかなければならないと考えている。こちらこそ今後とも協力をお願いしたい。

(橋本 委員)

カルタの制作についてだが、小学生に限定した意図は。

(小林 副館長)

子どもの目線で古町の魅力を発見できないかと考え、小学生に限定した。古町はむかしどうだったかという話を子どもにあらかじめするが、今の子どもがどういうイメージをもつか、また、むかしの子どもが古町にもつ思いと今の子どもが古町への思いの違いも浮き彫りにしたかった。

(橋本 委員)

カルタ制作の参加者は4名しか集まらなかったとお聞きしたが、その改善策は。

(小林 副館長)

こども歴史クラブのプログラムの一部をカルタ作りにし、その補填をする。

《全体を通して》

(渋川 委員)

昨年度の夏季企画展「にいがた船と港の 150 年」展は、今まで見たことがない資料もあり、頑張ったことがよく伺えた。

また、来館者数が前年度より増えた理由は職員みんなが努力しているからだと思う。職員が一生懸命にやることで館を好きになる人も増え、同時に新潟が好きになる、という良い循環になると思うので、大変だと思うが引き続き頑張っていってほしい。

以上